

1 日程

13:15	13:35	13:55	14:10	15:00	15:20	16:20	16:30
受付	全体概要説明 (東体育館)	移動	公開授業 (各教室)	休憩	授業研究会 (各教室)	閉会	

2 内容

(1) 全体概要説明会 13:35～13:55

- ・本校研究内容についての説明

教諭 卯津江康憲 (研究主任)

(2) 公開授業 14:10 (14:15)～15:00

- ・2年1組 道徳「かっぱわくわく」
- ・6年1組 道徳「心をつなぐ音色～ピアニスト 辻井伸行～」
- ・9年1組 道徳「しあわせ」

授業者 教諭 南里 香奈

授業者 教諭 卯津江康憲

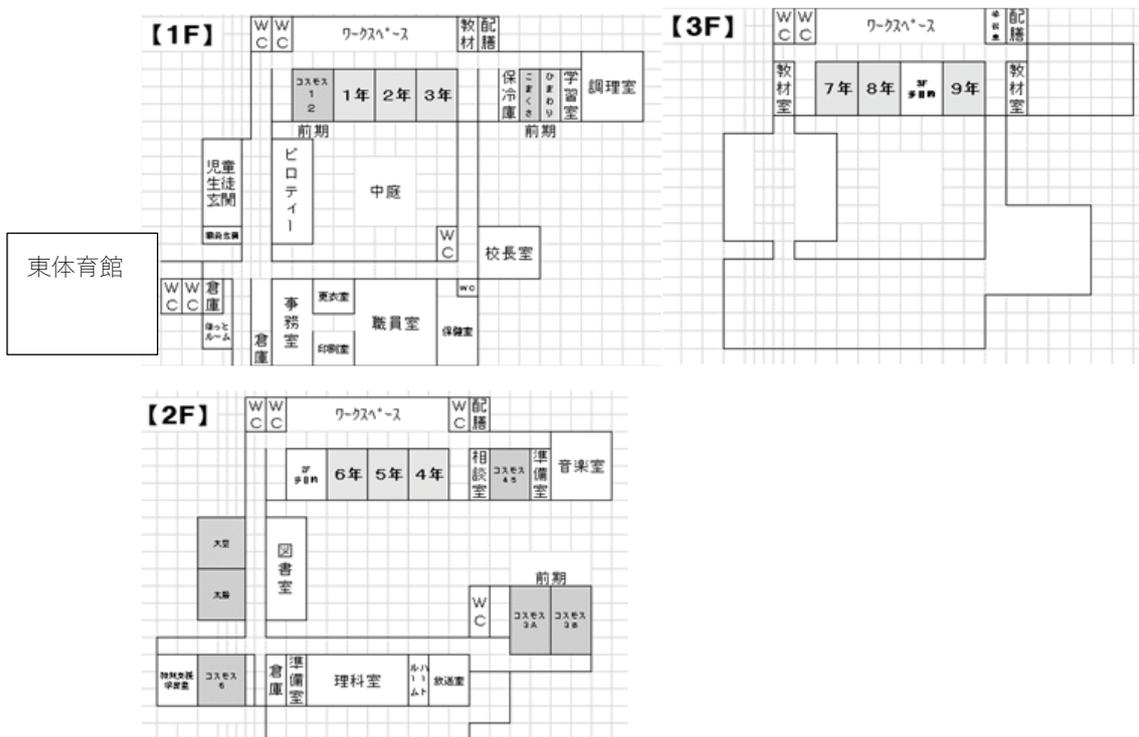
授業者 教諭 高津依久真

(3) 授業研究会 15:20～16:20

【指導助言者】

- ・2年1組 佐賀県教育庁東部教育事務所 指導主事 小松原 知子 様
- ・6年1組 唐津市立浜崎小学校 教諭 金丸 ゆか 様(スーパーティーチャー)
- ・9年1組 佐賀県教育庁学校教育課 指導主事 江上 緑 様

3 校内案内図



目次

I 研究の概要

1 研究主題	1
2 主題設定の理由	1～2
3 研究目標	2
4 研究仮説	2
5 研究の方法と内容	2
6 研究組織	3
7 全体計画・年間計画	4

8 研究内容の詳細

(1) 授業づくりの手順	5
(2) あくしゅタイム	5
(3) 全員授業と相互参観について	5
(4) 授業づくり(参観)の視点	6
(5) 道徳科授業と評価の工夫改善	7
(6) 一人一授業	8
(7) ローテーション道徳	9
(8) コラボ道徳	10～11
(9) 授業を支える取り組み	12～14

II 研究の実際

1 児童・生徒アンケート	15～21
2 抽出児童・生徒の変容	22～26
3 研究の成果と課題	27

III 資料

○令和4年度道徳教育の全体計画、論語一覧

*別冊・・・公開授業指導案及び授業実践（R3～4）

I 研究の概要

1 研究主題

「多様な価値を認め合う豊かな心の育成～9年間を繋ぐ「道徳科」授業の工夫改善や家庭、地域との連携を通して～（2／2年次）」

2 主題設定の理由

- 「特別の教科 道徳」の全面実施にともなって

平成27年3月27日に「特別の教科 道徳」（以下、道徳）が誕生し、小学校では、平成30年度から、中学校では令和元年度から道徳科の全面実施が行われた。道徳科の教科化の背景には、当時から全国的にいじめの問題が課題として残され、社会全体で心と体の調和のとれた人間の育成を行うために、人間性に深く迫る教育を行うことが求められることがある。学校における、道徳教育の目標を教員間で共有化し、指導内容の充実、指導方法の明確化、家庭や地域における道徳教育の重要性が求められる中で教科化が行われた。

このような道徳の教科化の背景から、全面実施後、まだ間もないこれからの道徳教育は次のような方向性の中で改善が加えられていく必要がある。1つ目は、道徳教育、道徳科の目標を教員間で明確にしつつ、共有することである。2つ目は、道徳教育、道徳科における教育内容を児童・生徒にとってより効果的なものにする事である。このことは、例えば、教科、学校行事、道徳科授業における教材をどのように計画的に配列するかというカリキュラム・マネジメントとも深いかわりがある。3つ目は、道徳科授業とその評価の工夫改善である。年間35時間の道徳科の授業の各時間を充実させるとともに、全教育活動を通じて行う道徳教育の要として、各教科を深化、補充、統合することも大切である。また児童・生徒一人一人の良さを伸ばし、成長を促す評価を充実させることも欠かすことができない。4つ目に家庭や地域と連携して行う道徳教育である。以上のような方向性を持ちながら今後の道徳教育を進めていくことが大切である。

- 児童・生徒の実態から

本校は平成25年度に地区内の2つの小学校と1つの中学校で小中一貫校として開校し、平成29年度に義務教育学校東原庫舎西溪校となり、今年で6年目を迎える。1年生から9年生までが1つの校舎の中でともに学校生活をおくり、学校行事や日常の学校生活の中で継続的・計画的に異年齢集団での交流活動を行っている。また、9年間を4・3・2の3つの段階に分けてそれぞれの発達段階に応じた教育活動を行っている。

本校の児童・生徒の傾向としては、素直で何事にも真面目に取り組むことが挙げられる。反面、1年生から9年生まで単学級で集団に変化がないことから、人間関係が固定化し多様性が生まれにくい、積極的なコミュニケーションが苦手といった児童・生徒が多い。

- 義務教育学校としての課題から

研究テーマを道徳とすることにより、義務教育学校として様々な成果を収めることができている。例えば、前期後期の別なく全ての教員が同じ目標、内容を共有しながら校内研究に取り組むことができている。また、このことは、研究の内容の焦点化や研究の組織づくり、実践の積み重

ね、系統的、段階的な指導の充実という点においても一定の成果を収めることにつながっている。

義務教育学校6年目を迎える本校においては、前期児童会と後期生徒会を統合した西溪会としての児童・生徒の自治的活動、学校行事における縦割り班活動等、義務教育学校として一貫した取り組みを推進してきた。今年度は、これらの取り組みをさらに充実させていくことが課題であると考えている。特に、本校における低学年（1～4年生）、中学年（5～7年生）、高学年（8～9年生）の区分の中で、中学年グループにおいて、より一層の接続を強化する取り組みを充実させる。そして、それを基盤としながら、全ての教員が児童・生徒の発達段階の違いを踏まえながら活発に議論し合うことで、教師一人一人の9年間の学びを見通す力と指導力の向上を目指していきたいと考える。

○ 研究の方向性

以上のような児童・生徒の実態や本校の課題から、これからの道德教育の方向性、本校の児童・生徒の実態、義務教育学校としての課題を踏まえ、研究主題を「多様な価値を認め合う豊かな心の育成～9年間を繋ぐ「道德科」授業の工夫改善や家庭、地域との連携を通して～」と設定し、前年度より研究を進めてきた。

本校では、「多様な価値を認め合う豊かな心」の「多様な価値」を①「児童・生徒が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要だと考えられる道徳的価値」と定めるとともに、②「成長過程や生活経験等により異なる多様な児童・生徒の個性」と定義し、それらを互いに認め合う豊かな心の育成を目指してきた。その中でも、道德教育の重点目標である「多様な価値を認め合う豊かな心の育成」の下、道德の重点内容項目に「思いやり、相互理解」、「個性の伸長」、「努力と強い意志」、「生命尊重」等を設定し、教育活動全体を通じた道德教育において指導を行っている。具体的には昨年度まで積み重ねてきた道德教育の研究を基盤としながら、次の2つの柱を設けて研究を進めていく。

- ① 道德科の授業とその評価の工夫・改善
- ② 道德科の授業を支え、生かす取り組み

3 研究目標

児童・生徒の「多様な価値を認め合う豊かな心」を育成するために、義務教育9年間を繋ぐ「道德科」授業とその評価の在り方、「道德科」の時間を支え生かす取り組みについて研究する。

4 研究仮説

- ① 道德科授業とその評価を工夫・改善すれば、児童・生徒の「多様な価値を認め合う豊かな心」が育成されるだろう。
- ② 道德科授業を支え、生かす取り組み（家庭や地域と連携し、児童・生徒の道德教育の基盤づくりを行うこと、すべての教育活動において、意図的、計画的に編成した道德教育を行うこと）を充実させれば、児童・生徒の「多様な価値を認め合う豊かな心」が育成されるだろう。

5 研究の方法と内容

- ① 考え議論する道徳の授業と評価の工夫改善
- ② 道徳科の時間を支え、生かす取り組み

以上の取り組みを、講師を招き、指導・助言をいただきながら、年間を通して計画的に進めていく。

< 講師 > 唐津市立浜崎小学校 金丸 ゆか 教諭 (スーパーティーチャー)

指導・助言の内容

- ・研究全体に関わって、年間を通して指導・助言をお願いします。
- ・道徳科の時間を要としながら、全ての教育活動を通して行う道徳教育の在り方について指導と助言をお願いします。
- ・全体研究会には、指導案作成の段階から助言をお願いします。
- ・全体研究会には、指導助言者として参加していただく。

6 研究組織

校長、副校長、教頭

研究推進委員会

全体研究会

校内研究部会

○授業づくり

○授業を支え生かす取り組み

低学年グループ
(1～4年)

田中、徳永京、坂本
南里、伊藤、徳永勝
松尾、五十嵐、脇部
緒方、江口泰、市丸

中学年グループ
(5～7年)

森下、荒木
江口洋、小島
卯津江、原田、武村

高学年グループ
(8～9年)

御厨、富増、高原
村山、高津、永松
末次

7 全体計画・年間計画

期日	内容
4月 8日(金)	第1回全体研究会 ・研究テーマ、内容、組織の提案 ・授業実践のスケジュール打ち合わせ等
4月22日(金)	第2回全体研究会 ・内容の提案 ・授業実践のスケジュール打ち合わせ等
5月16日(月)	第3回全体研究会 → 学年グループ会 ・全体計画の提案 ・授業実践のスケジュール打ち合わせ、決定等
6月15日(水) ◎授業、授業研究	第4回全体研究会 6年1組 ・【外部講師による模範授業】 研究授業、講話 ※講師：金丸教諭
6月末	第5回全体研究会 → 学年グループ会(マトリックス作業) ・校内研究部より提案 ・学年グループより研究の経過報告作成について(1学期のまとめ)
7月13日(水) ◎授業、授業研究	第6回全体研究会 ・【校内研究部より提案授業】 末次教諭研究授業、授業研究会 ※講師招聘
8月4日(木)	第7回全体研究会 ・第1回指導案検討 ・研究の経過報告会(1学期のまとめ)
9月14日(水)	第8回全体研究会 ・第2回指導案検討
10月 5日(水)	第9回全体研究会 ・研究授業の模擬授業
10月12日(水)	第10回全体研究会 ・公開授業準備
10月14日(金)	研究指定道徳授業公開(提案授業は3本、5校時：公開授業、6校時：研究協議) 低学年グループ(授業者：南里教諭) 中学年グループ(授業者：卯津江教諭) 高学年グループ(授業者：高津教諭)
11月 9日(水)	第11回全体研究会 公開授業の振り返り
12月14日(水)	第12回全体研究会 → 学年グループ会 ・学年グループ会より研究の経過報告会(2学期のまとめ)
1月18日(水) ◎授業、授業研究	第13回全体研究会 ・提案授業 6年1組 江口教諭研究授業、授業研究会 ※講師招聘
2月 8日(水)	第14回全体研究会 ・今年度の研究の経過報告会(1年間のまとめ)
3月15日(水)	第15回全体研究会 ・今年度のまとめ ・成果と課題の共通理解 ・次年度に向けて

8 研究内容の詳細

(1) 授業づくりの手順

- ① 授業で取り扱う道徳的諸価値について知る、理解する。
学習指導要領で確認した後、道徳的価値について自分の言葉で説明できるようにする。
- ② 授業を行う児童・生徒について道徳的諸価値について実態を確認する。(児童生徒観)
- ③ 資料の決定、資料の理解を行う。(教材観)
道徳的諸価値が資料の中で、だれによって、何によって、どのように表されているか知る、理解する。
- ④ 主題を考える。
- ⑤ 指導過程を考える。(指導観)
児童・生徒に応じた中心発問を決定し、補助発問を決定する。中心発問に対して、児童・生徒が表現することのできる教具を選ぶ。
- ⑥ 他の教育活動との関わりを考える。
別業に沿って、コラボ道徳を行う。(道徳教育における深化、補充、統合)

(2) あくしゅタイム

道徳科の授業において、児童・生徒が互いの考えを話し、聞く場面を意図的に設けることで、「主体的、対話的で深い学び」(考え議論する道徳)を実現するために行う。

具体的には、本校のめざす児童・生徒像である「あくしゅ」の気持ちをもちながら、他者と関わり合う場面のこと。主に中心発問の際に設定する。個人の考えをもち、ペアやグループ、全体で考えを話し合う、という手順を経て、自分の考えを見つめさせる。

① 話し合いの目的

- ・考えを出し合う、広げる(討議)
- ・考えをまとめる(協議)

② 手立て

自分や友達のを考えを可視化する手立てをとることで、話し合いを活性化する。

例)「ネームプレート」、「こころの円グラフ」、「心のものさし」、「ICT機器の活用」

本校のめざす児童・生徒像	道徳的価値
あ 相手のことを思いやる	: 思いやり
く くじけずにがんばる	: 強い意志
し 自分で考え、学ぶ	: 自律
ゆ 勇気を持って行動する	: 希望と勇気

(3) 全員授業と相互参観について

○代表授業者は、正式な指導案、代表者以外は、授業前に略案を提出して授業を行う。(一人一授業の計画に基づき、参観しやすいように事前にできるだけ早く指導案、略案の提出を行う。)

○指導案、略案については、事前に検討を行う。

- 各学年グループは、相互に参観。可能な範囲で授業研究会を設定。管理職、研究主任、副主任、可能な教員はできる限り参観する。
- その他、都合がつかない場合は、ビデオで撮影し、L3の校内研究のフォルダに保存し、後日、相互参観を行う等の工夫を行う。

(4) 授業づくり（参観）の視点

ア 授業づくりの視点

<視点1> 道徳的諸価値の理解をもとに、物事を多面的・多角的に考えることをうながす手立てがとられていたかどうか。

<視点2> 道徳性を養うために、物事を自分自身との関わりで考えることができるような手立てがとられていたかどうか。

視点1、2をもとに授業づくりをする。また、授業参観の際には、その視点とする。1、2とそれ以外のことについて参観カードを書き、授業者へ手渡す。

イ 授業参観（授業づくり）の視点設定の考え方

道徳科の目標に示されている学習活動を授業づくりの基本として共有する。目標に基づき、資質・能力を意識して、授業づくりに臨む。その後、2つの点について意識していく。

- ・「道徳的諸価値について理解する、物事を多面的・多角的に考える」という理解（知識・技能）、考える（思考力・判断力・表現力）という側面
- ・「自己を見つめ、自己の生き方について考える」という学びに向かう力、人間性等という側面

平成20年度版学習指導要領解説に基づいて行われていた「道徳の授業」の課題を克服する。
(読み取り道徳、押し付け道徳、宣言道徳等の克服)

「あくしゅタイム」は、あくまで方法であり、本質（目的、目標）により迫ることを重視することがよりよい道徳授業になると捉える。

(5) 道徳科授業と評価の工夫改善

○ねらいの明確化

ねらいとは、児童・生徒の実態に基づき、育みたい道徳的価値に関わる道徳性の様相を簡単に表したものである。

○主題の明確化

ねらいに基づき、教材をどのように活用するか示したものである。

○学習指導過程

① 導入

児童・生徒に問題意識を持たせたり、自分事として捉えさせたりする（自我関与）。道徳的諸価値への導入、教材の内容への導入などが一般的。例えば、事前アンケートを基に、他の教科、学校行事等の体験活動と関わらせたり、保護者や地域の方々の思いを提示したりすることが考えられる。

② 展開

基本発問3つ程度、その中で最も考えさせたい1つの中心発問と2つの発問によって構成する。道徳科の目標を基に、展開で児童・生徒へ道徳的諸価値についての理解を促す。道徳的諸価値の理解とは、主に価値理解、人間理解、他者理解のことである。

児童・生徒の理解は発問によって始まる。「教材の理解」（読み取り道徳）ではなく、「自分事として理解させる」ために発問が重要となる。

- ・「あくしゅタイム」：主に中心発問で行う話し合い活動の時間のことである。導入、発問①、発問②等で積み上げた道徳的諸価値の理解のもとに形成された児童・生徒個々の価値観を話し合う。

③ 終末

- ・自分を振り返る活動：書く活動（自己を見つめる）
- ・価値を温める活動：教師の一方的な価値観の押し付けにならないようにする。
説話、詩、歌等の紹介。論語カルタを積極的に活用する。

(6) 一人一授業

日程	学級	主題名	内容項目	授業者
6月15日	6年	働くってどういうこと？「ぼくの仕事は便所そうじ」 (講師模範授業)	勤労	金丸
7月15日	8年	いじめのない世界へ「私のせいじゃない」	公正公平、社会正義	高原
7月6日	4年	ちがいをゆたかさに「つむじ令」	公正公平、社会正義	江口泰
7月11日	3年	正直に明るい心で「一本のアイス」	正直、誠実	五十嵐
7月13日	9年	将来の自分を見つめて「好きな仕事か安定かなやんでいる」	勤労	末次
9月7日	2年	じぶんでできること「かむかむメニュー」	節度、節制	伊藤
9月7日	9年	信念をつらぬいて生きる「背番号15が歩んだ道―黒田博樹」	よりよく生きる喜び	御厨
9月14日	1年	友達っていいな「こころはっぴ」	友情、信頼	徳永京
9月27日	4年	よく考えて行動する「いっしょになって、わらっちゃだめだ」	節度、節制	緒方
9月28日	2年	世界の国の人たちと「ひろいせかいのたくさんの人たちと」	国際理解、国際親善	徳永勝
10月14日	2年	親切のよさ「かっぱわくわく」	親切、思いやり	南里
10月14日	6年	なりたい自分に「心をつなぐ音色～ピアニスト辻井伸行」	努力と強い意志	卯津江
10月14日	9年	価値をめぐって「しあわせ」	相互理解、寛容	高津
10月19日	5年	広い心で「名医、順庵」	相互理解、寛容	森下
10月26日	3年	もくひょうにむかって「一りん車にのれた」	希望と勇気、努力と強い意志	松尾
11月2日	9年	将来の自分を見つめて「缶コーヒー」	社会参画、公共の精神	村山
11月9日	7年	生きることのすばらしさを感じて「花に寄せて」	よりよく生きる喜び	原田
11月16日	5年	かけがえのない生命「コースチャーぼうやを救え」	生命の尊さ	小島
11月16日	1年	家族の人の願い「かやねずみの かあさん」	家族愛、家庭生活の充実	田中
11月30日	7年	家族の思いにふれて「靴」	家族愛、家庭生活の充実	武村
11月30日	4年	家族の助け合い「お母さんのせいきゅう書」	家族愛、家庭生活の充実	荒木
12月7日	8年	あきらめない気持ちで「左手でつかんだ音楽」	希望と勇気、努力と強い意志	富増
12月7日	3年	大切な命「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」	生命の尊さ	脇部
12月14日	1年	友達を思う心「二わのことり」	友情、信頼	坂本
1月18日	6年	過ちを許す「銀のしょく台」	相互理解、寛容	江口洋

太字

…研究授業および授業研究会、ならびに公開授業

(7) ローテーション道徳

義務教育学校として、全ての教員で児童生徒理解を深め、発達段階に応じた授業力を向上させるために、全ての教員で道徳の授業を行っていく。学年グループ内のローテーション道徳を行い、9年間を見通した意図的、計画的な道徳科授業を実践していく。ここでは、中学年グループの例について紹介する。

中学年 ローテーション道徳 行事・内容項目						
4月 入学式 釈菜				7月・8月 地区中体連(7) 大掃除		
13	5年	森下	B感謝	6	5年	卯津江 ◎D生命の尊さ
	6年	江口	B礼儀		6年	森下 C規則の尊重
	7年	武村	B礼儀		7年	江口 C社会参画、公共の精神
20	5年	荒木	◎A希望と勇気、努力と強い意志	13	5年	江口 Cよりよい学校生活、集団生活の充実
	6年	森下	A個性の伸長		6年	小島 ◎D生命の尊さ
	7年	卯津江	C遵法精神、公德心		7年	武村 C郷土の伝統と文化の尊重
※	5年	江口	A正直、誠実	8月 31	5年	森下
27	6年	小島	C勤労、公共の精神		6年	江口
別日	7年	卯津江	A向上心、個性の伸長		7年	武村
5月 体育大会 交通安全教室				9月 修学旅行(6) 平和学習 駅伝大会(7) 授業参観		
11	5年	森下	◎A善悪の判断、自律、自由と責任	7	5年	武村 A真理の探究
	6年	卯津江	C家族愛、家庭生活の充実		6年	森下 C国際理解、国際親善
	7年	武村	◎B相互理解、寛容		7年	卯津江 ◎D生命の尊さ
18	5年	武村	C規則の尊重	14	5年	江口 C規則の尊重
	6年	森下	D伝統と文化の尊重		6年	卯津江 ◎A善悪の判断、自律、自由と責任
	7年	卯津江	◎A自主、自律、自由と責任		7年	小島 ◎D生命の尊さ
25	5年	江口	C勤労、公共の精神	21	5年	卯津江 Dよりよく生きる喜び
	6年	卯津江	D自然愛護		6年	江口 C規則の尊重
	7年	小島	◎A自主 ◎B相互理解		7年	武村 ◎D生命の尊さ
6月 宿泊自然教室(5) プール開き 授業参観				28	5年	小島 D家族愛、家庭生活の充実
1	5年	卯津江	D感動、畏敬の念		6年	卯津江 ◎A希望と勇気、努力と強い意志
	6年	小島	◎B親切、思いやり		7年	森下 C郷土の伝統と文化の尊重
	7年	武村	A節度、節制	10月 地区新人戦(7) 釈菜 文化発表会		
8	5年	森下	C公正、公平、社会主義	5	5年	C国際理解、国際親善
	6年	卯津江	C国際理解、国際親善		6年	A節度、節制
	7年	江口	A節度、節制		7年	C遵法精神、公德心
15	5年	武村	◎B親切、思いやり	★14 公開	5年	B礼儀
	6年	小島	B感謝		6年	B友情、信頼
	7年	卯津江	B友情、信頼		7年	Cよりよい学校生活、集団生活の充実
29	5年	森下	D自然愛護	19	5年	◎B相互理解、寛容
	6年	卯津江	B友情		6年	◎D生命の尊さ
	7年	武村	C勤労		7年	C勤労
				26	5年	◎A希望と勇気、努力と強い意志
					6年	A正直、誠実
					7年	◎B思いやり、感謝

(8) コラボ道徳

学習指導要領には、学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものとされている。各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における特質を生かしながら、道徳教育を深化、補充、統合していくためにコラボ道徳を行っている。

1年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
うかんだ うかんだ	頑張る心	体育大会	5月下旬
ぼくのあさがお	植物を育てる	生活科	7月
おばあちゃんがわらった	優しい気持ち	学活	12月
もうすぐ2年生	楽しい学級	幼保小交流会	2月

2年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
大すきなフルーツポンチ	だれにでもこうへいに	学活	5月
「三組 大すき」	たのしい学校せいかつ	ふれあい道徳	6月
げんきにそだて、ミニトマト	生きものにやさしく	生活科	6月
きいろいベンチ	みんなが使うものやばしょ	バス旅行	10月
ながいながいつうがくろ	わたしたちの町、わたしたちのくに	生活科	11月
たんじょう日	いのち	生活科	2月

3年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
いいち、にいつ、いいち、にいつ	友だちと信頼し合う	体育大会	5月
二つの声	正しいと思うことは自信を持って	ふれあい道徳	6月
S L公園	正しいと思うことは自信を持って	総合的な学習の時間	11月上旬
ふるさといいところさがし	国や郷土のよいところ	社会科	2月下旬

4年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
いっしょになって笑っちゃだめだ	よく考えて行動する	人権集会	6月
心の信号機	公共の精神	総合的な学習の時間	7月
心と心のあく手	公共の精神	総合的な学習の時間	7月
点字メニューにちょうせん	進んで活動する	総合的な学習の時間	7月
いのちのまつり	生命の尊さ	二分の一成人式	12月

5年

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
いつも全力で	夢を実現するために	学級開き	4月
ノンステップバスのできごと	誰に対しても思いやりの心を	宿泊学習	6月中旬
名医、順庵	広い心で	総合的な学習の時間	10月下旬
ベートーベン	希望をもって	文化発表会	11月
くずれ落ちたダンボール箱	困った人の身になって	委員会活動	1月
感動したこと、それがぼくの作品	自分のよさを伸ばす	学活	2月下旬
クマのあたりまえ	生きているからこそ	総合的な学習の時間	3月

6年

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
あこがれのパティシエ	自分の特徴を見つめて	総合的な学習の時間	4月中旬
ばかじゃん！	友情を深める	体育大会	6月中旬
みんないっしょだよ	相手の立場に立って親切に	国語科	6月
夢	努力の尊さ	総合的な学習の時間	2月
東京大空襲の中で	かけがえのない生命	総合的な学習の時間	2月

7年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
選手に選ばれて	遵法精神、公德心	中総体	7月上旬
ぼくのふるさと	郷土の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	秋の収穫	10月下旬
班での出来事	友情、信頼	文化発表会	10月
全校一を目指して	よりよい学校生活、集団生活の充実	文化発表会	10月

8年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
みんなでとんだ！	本当の友情とは	体育大会	5月
私は一四歳	今を生きる私のために	高校説明会	6月
祭りの夜	郷土のことを考える	秋の収穫	10月
遠足で学んだこと	歩調を合わせて	文化発表会	10月

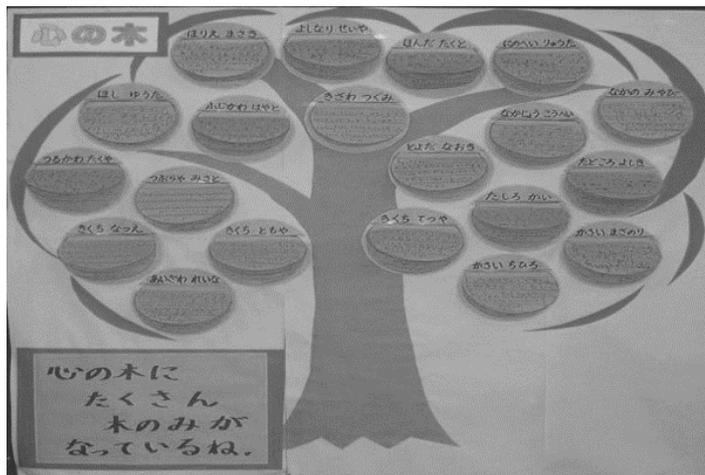
9年生

教材名	主題名	関連行事及び教科	実施時期
ライバル同士の友情	心から信じ合える友を	体育大会	5月
書かれなかった遺書	生命の尊さ	修学旅行	7月
高く遠い夢	より高い目標を目指して	高校入試	12月
合格通知	情報モラルと友情	高校入試	1月

(9) 授業を支える取り組み

① 「心の木」の取り組み

豊かな体験活動や学習活動を行うと児童生徒は、自分が取り組んでいる活動に価値を見出し、主体的にかかわるようになる。校内に道徳コーナー「心の木」を設けることで、児童・生徒が自分や他者のよい所に目を向け、互いを認め合う気持ちを高めるようにしている。 道徳の授業で取り扱う価値項目と行事のねらいを関連付けることで、道徳の実践意欲と態度を育んでいく。



資料1 「心の木」

○学年ごとに掲示を分ける。※資料1

(場所：1階の中央廊下)

○行事の振り返りとしても活用する。

毎月1回以上実施する。

次の行事は、全学年で実施する。

5月・・・体育大会

10月・・・文化発表会

※その他、学年の行事等における

活用を広げていく。

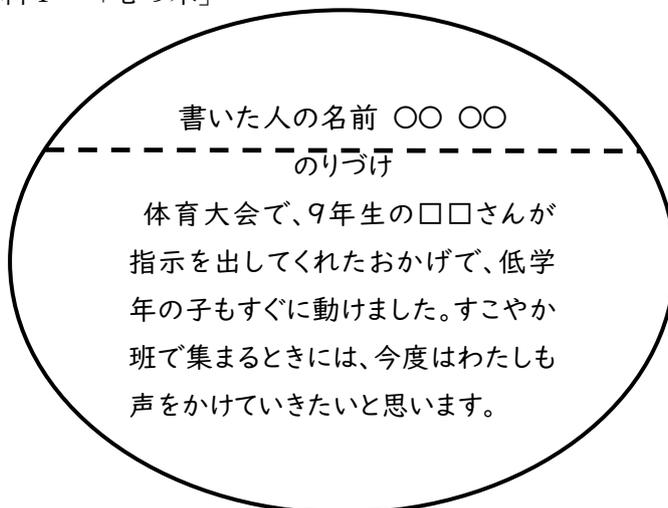
例) 川遊び、町探検、二分の一成人式、

自然教室、修学旅行、立志式、職場体験

○自分の名前が書かれた場所に貼る。

※ 書いた本人に主体を置くことで、教師は児童・生徒の変容をつかむ。

※ 道徳通信や学級通信で「心の木」を紹介し、交流を促す。



「心の木」に貼るカード

② 家庭・地域との連携

家庭や地域と連携することで、児童・生徒の学びを、学校生活だけでなく家庭や社会での生活へとつなげ、道徳的判断力と実践意欲を育むことを目的とする。

ア 道徳通信の発行

「心の木」の児童・生徒の感想を紹介することで、異学年の掲示にも目を向け、交流を促すことをねらいとする。

学校の道徳教育の取り組みを家庭に知らせたり、授業参観時の保護者からの感想を紹介したりすることで、保護者の関心を高める。

	時期	内容 ◎は中心となる事項
第1号	6月発行	◎ 体育大会後の「心の木」 ・ 6月の「ふれあい道徳」における各学年の取り組み ・ 6月の「ふれあい道徳」を参観した保護者からの感想
第2号	10月発行	◎ 9月行事の「心の木」 ・ 9月の道徳授業の様子 ・ 9月の道徳推進地域連絡協議会より頂いた意見
第3号	11月発行	◎ 文化発表会後の「心の木」の紹介 ・ 10月の研究発表会の様子

< 6月に発行した道徳通信 >



東原岸倉西小学校
令和4年6月20日発行
文責 末次 由美子

みんなの「心の木」

今年度も道徳だよりを発行します!

日頃より、本校の道徳教育へのご支援、ご協力ありがとうございます。この「道徳だより」を通して、学校全体での道徳教育の取り組みや、道徳の授業の様子、子ども達が頑張る姿などをお知らせしたいと思います。

学校と家庭・地域が連携を取りながら、子ども達の道徳性を育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

☆家読しよう!～家の人と考えよう～

5月から「家読しよう!～道徳～」の取り組みを行っています。家読とは、家族で同じ読み物を読んで、感想を伝え合う取り組みです。家読をすることで、子ども達が道徳の学習で考えたことを振り返り、ご家族の方の考えを聞き、新たに考えを広げていってほしいと思います。家読カードを持ち帰った際には、教科書と一緒に読んでいただき、コメントをいただけるとうれしいです。

～1年生をむかえる会～

👏 1年生はとってもかわいくて、じこしようかいなど上手に言えて、すごいなと思いました。これからいっぱいあそびたいです。(5年生)

👏 1年生へのプレゼントをあげたら、うれしそう顔をしていたよ。1年生が楽しそうにしているのを見て、うれしかったよ。日めくりカレンダー作ってよかったなあ。(4年生)

👏 1年生がどきどきしながらがんばっていて、でも6年がよこにいたので、うれしそうなんでした。班の友達の名前が知れたのでよかったです。(6年生)

☆「あくしゅタイム」について

本校では、学習活動において、児童生徒が互いに考えたことや感じたことを話し合う場面「あくしゅタイム」を設定しています。この「あくしゅタイム」を通して、友達の様々な考えに触れて、自分の考えを広げ、深めていってほしいと考えています。

☆「心の木」について

1階の中央廊下にある「心の木」には、互いの頑張りがよさを見つけ、コメントを書いています。この取り組みによって、自分や友だちのよいところに目を向け、互いを認め合う気持ちが高まっています。

～体育大会～

👏 おうえんがっせん すごかったよ!(1年生)

👏 ツバメダンスをがんばりました。1年生とまたおどるのが、楽しみです。(2年生)

👏 4年生の青だんのみなさん。グローブタイフンのおせわをしてくれてありがとう。(3年生)

👏 全員が一致団結してやれたと思います。その中でも9年生がいろいろ準備や説明してくれたおかげで、体育大会が成功できたと思います。(7年生)

☆文化発表会

👏 文化発表会の人たちが華むしりなどをしてくださって、きれいなグラウンドで体育大会をすることができました。ありがとうございました。(6年生)

👏 8年生が積極的に応援リーダーに舞などの質問をしていて、自分もしっかりと分からないことはかきずき聞いてみようと思った。(8年生)

👏 学校の皆さんへ 私は今年が最後だったので、それにふさわしい体育大会になったと思います。それを支えてくださったのはまざれもなく、学校の皆さんだともっているの、本当にありがとうございました。(9年生)

イ 道徳ファイル（道徳ノート）の活用

- ① 授業者は、評価の観点をもち、ワークシートにコメントや丸を記入し、返却する。
 - * 「自己を見つめる」…自分事として捉え、経験から想起して、考えを深める姿。
 - * 「多面的・多角的に考える」…価値の理解を基に、様々な視点から理解する姿。
 - * 「生き方についての考えを深める」…これまでを振り返り、これからの生き方を考えながら、自分の道徳的価値観をより明確にしている姿。
- ② 児童・生徒は、チェックシートに日付と教材名を記入する。
- ③ 週1回、道徳ファイルと教科書を持ち帰り、保護者のサインをもらう。

<道徳ファイルの表紙に入れる家読カード>

うちどく

★道徳の学習の後に、自分でふりかえる「家読」をしましょう。

家読しよう！～どうとく～

年 名前 ()

家読は、お子さんが道徳で学習したお話や資料を、保護者の方と一緒に読み、感じたことや考えたことを家族で話して頂くというものです。

感想が難しかったら、サインだけでもけっこうです。学校の「心の教育」では、どんなことをしているのか知っていただき、ご家庭でも生かして頂けるものになれば幸いです。

家読のやり方

- ① 道徳の教科書を持ち帰る。
- ② 学習したお話を、家族の人と一緒に読む。
- ③ 感じたことや考えたことを、家族の人と話す。
- ④ 保護者の方から、一言を記入してもらう。

日付	読んだ話・資料	保護者の方から一言 (サインでも)	担任
記入例	選手に選ばれて	大人も権利と義務でゆれることがあるため、じっくりと考えてほしい。	

II 研究の実際

1 児童・生徒アンケート

児童・生徒の実態を把握し、変容を確かめていくために、以下のような項目でアンケート調査を行う。(令和3年度12月が事前アンケート、令和4年7月が事後アンケート)「道徳心に関する意識」については、本校の道徳教育が「めざす児童生徒像」に関わる内容に絞った設問を設ける。アンケートを通して把握した実態をもとに、各学級の日々の授業実践における教材選定や手立ての工夫、研究授業で取り上げていく内容項目の絞り込み等に活用していく。

○「道徳の時間に関する意識」について

4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

1	道徳の時間には、他の人の考えをしっかりと聞こうとしていますか？
2	道徳の時間には、自分の考えをしっかりと伝えようとしていますか？
3	道徳の時間には、自分のことについてよく考えていますか？
4	道徳の時間に学習したことを、生活の中で思い出すことがありますか？
5	道徳の時間に学習したことを、他の学習の時間に思い出すことがありますか？
6	道徳の時間に学習したことを、家の人に話すことがありますか？
7	道徳の学習は、自分のためになっていると思いますか？

○「道徳心に関する意識」について

4：思う 3：だいたい思う 2：あまり思わない 1：思わない

1	人の気持ちがわかる優しい人になりたい。
2	居心地のいい学級になるように、友達と仲良く協力している。
3	他の人の感じ方や考え方を大切にしている。
4	人の役に立つ人になりたい。
5	自分にはよいところがある。
6	友達がいけないことをしていたら、注意して教えている。
7	目標に向かって努力する人になりたい。
8	自分でやるぞと決めたことは、最後までやりとげている。
9	将来のために、今、努力している。
10	生活を整え、心も体も健康な人になりたい。
11	約束やきまりを守って、生活している。
12	友達や先生、家族や地域の人に、気持ちのよいあいさつをしている。

アンケートは、今年度は7月と12月に行う。学校全体としての実態と、低学年・中学年・高学年の学年グループごとの実態を、昨年度までの実態と比較できる形で表したものを掲載する。

グラフ内の数字は、児童・生徒の回答を数値化し、項目ごとに平均値を算出する。

(1) 道徳科授業の工夫・改善について

仮説(1)における道徳科授業とその評価の工夫・改善について分析する。授業づくりの視点として、「物事を自分自身との関わりで考えることができるような手立てがとられていたかどうか。」と「道徳的諸価値の理解をもとに、物事を多面的・多角的に考えることをうながす手立てがとられていたかどうか。」を設定していた。そこで、これらの視点ごとに、分析を進める。

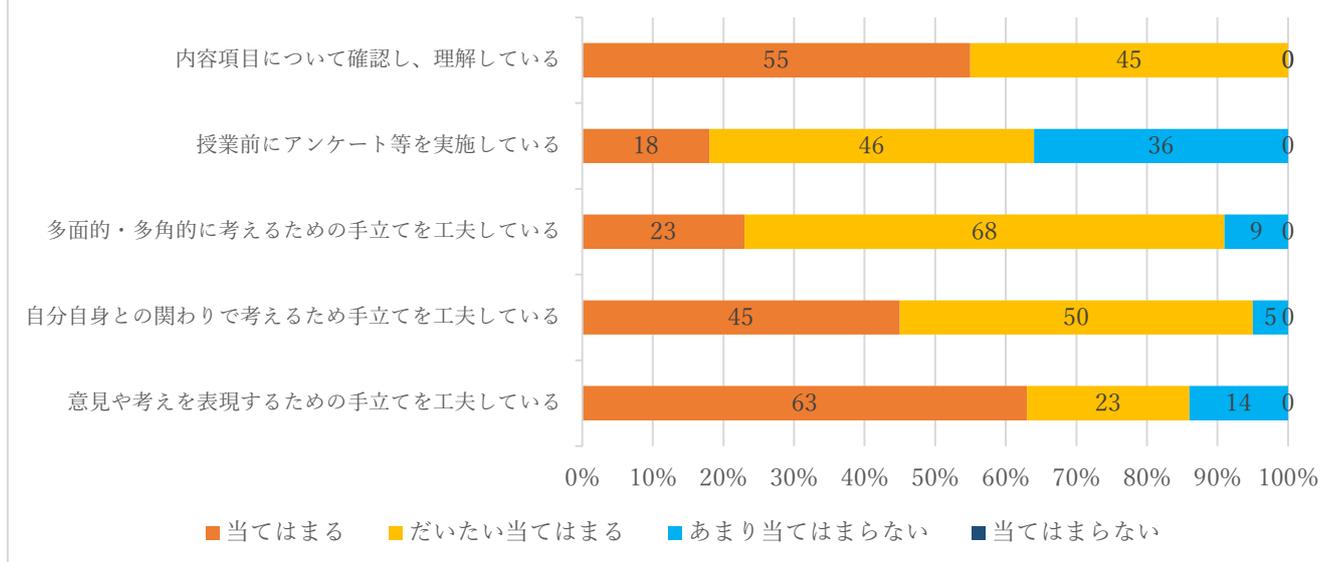
ア 自分自身との関わりで考えること

一人一人が発問について自分事として捉え自分の意見を持つことができるように、授業の導入では児童・生徒への事前アンケートを紹介した。事前アンケートを実施することで、発問や補助発問をする際に児童・生徒の例として提示することができ、他の児童・生徒は「自分はどうか感じるか、考えるか」と自分の考えを見つめる手立てとなっていた。

毎回の授業において、ねらいを明確にしながら道徳の実践を行った。教員に対する「道徳の授業に関するアンケート(資料①)」においても、全ての教員が内容項目について理解した上で授業を行えたと回答していた。ローテーション道徳では、担任以外の教員も道徳の授業を行うため、担任との情報交換を行い、児童・生徒の理解を進めることができた。そして、自己の経験を想起させるような中心発問や補助発問を精選し、計画的に実践を重ねた。

授業の終末では、振り返りを行う際に、「今までの自分」、「これからの自分」などの言葉を用いることで、自分事として価値を見直すことができるように促した。また、授業の導入や終末において、日常の委員会活動など児童・生徒の活動の様子を写真や動画で提示し、より自分のことについて考えられるようにした。そのため、「自分自身との関わりで考えることができるような手立てを工夫している」と回答した教員は、95%であった。

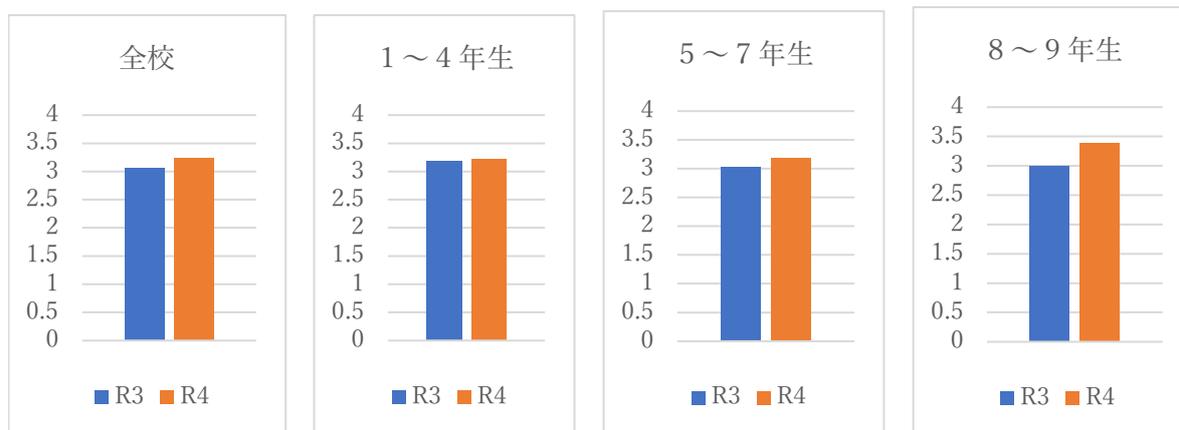
資料① 道徳の授業に関するアンケート(教員)



「道徳の時間に関する意識」についてのアンケートで、児童・生徒が道徳的価値について自分自身との関わりで考える児童・生徒の姿に近づいているかを検証する。(資料②、③)

資料② 「道徳の時間に関する意識」についてのアンケート（児童・生徒）

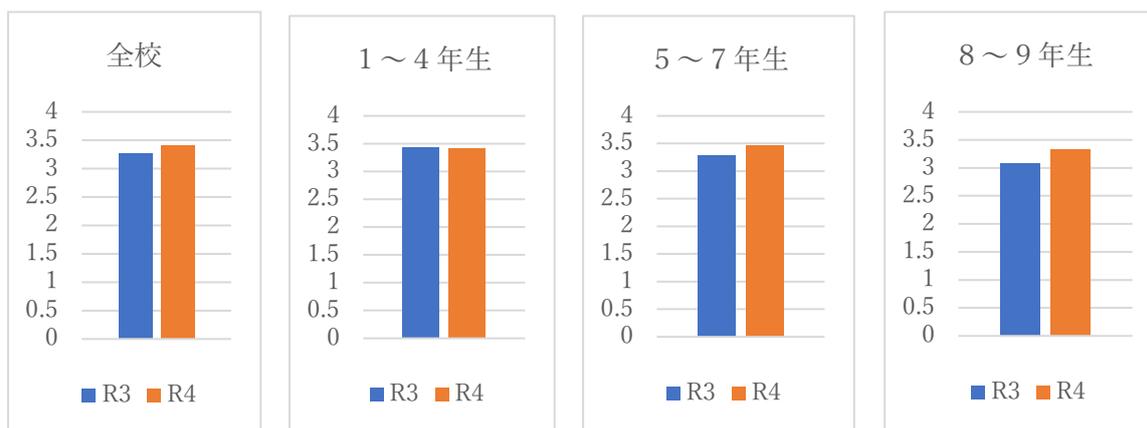
「道徳の時間には、自分のことについてよく考えていますか？」



4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

資料③ 「道徳の時間に関する意識」についてのアンケート（児童・生徒）

「道徳の学習は、自分のためになっていると思いますか？」



4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

資料②の結果から、児童・生徒の道徳的価値について自分との関わりにおいて考えようとする意識の高まりが見られた。授業の発問が、教材を理解するための発問ではなく、児童・生徒にとって自分事として理解させることができている成果であると考えられる。

あわせて、資料③の結果からも、道徳の授業が自分のためになると感じ、授業について満足感を得ていることが分かる。これらの結果から、道徳の授業において導入を工夫し、発問を精選し、自分を振り返る終末を行うことで、道徳科の授業改善につながったと考える。

イ 多面的・多角的に考えること

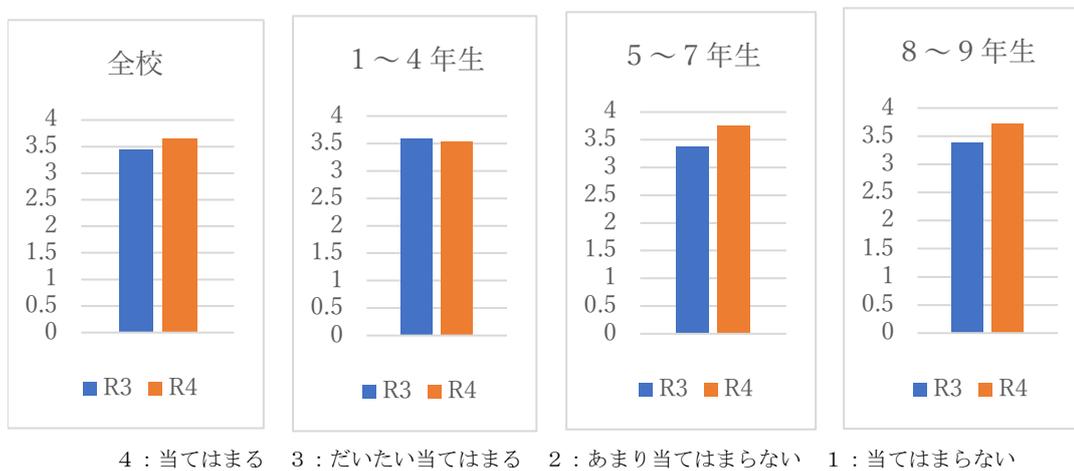
多面的・多角的に考えを交流するために、「心のものさし」や「表情図」、「役割演技」などを活用し、互いの意見の違いを可視化するようにした。9月に教員に対する「道徳の授業に関するアンケート」を実施したところ、「授業において児童・生徒が多面的・多角的に考えるための発問や学習活動を設定している」と回答した教員は91%であった。また、「意見や考え

を表現するための手立てを工夫している」と回答した教員は86%であった。多くの授業で、児童・生徒が意見や考えを表現できるように手立てを工夫したり、多面的・多角的に考えられるように学習活動を工夫したりしようという教員の意識の高まりが見られた。(P16の資料①)

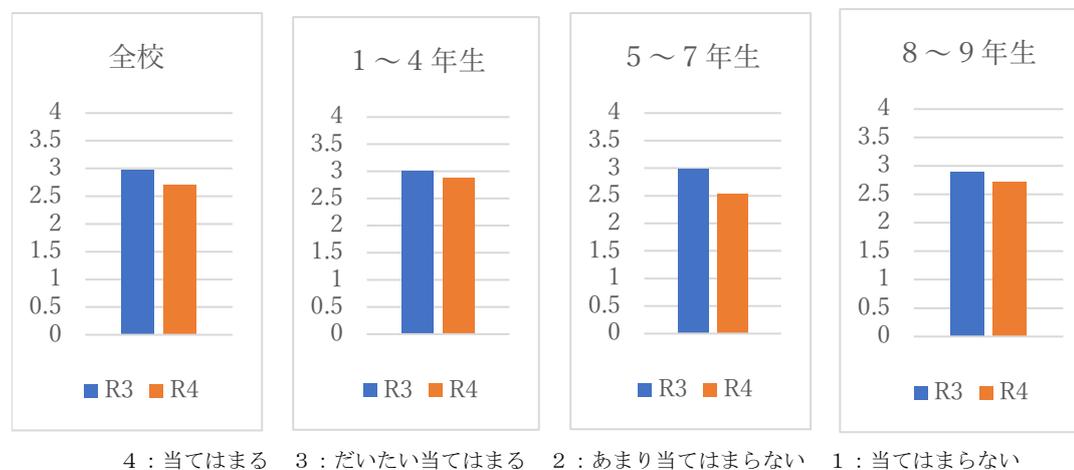
道徳の授業では、毎時間「あくしゅタイム」を設定し、互いの意見を交流する場を設けた。交流をする際には、似ている意見なのか、違う意見なのか観点を持たせながら話し合わせるようにした。積極的に相手の話を聞けるように、交流の際はサインをさせ、共感した考えについてはメモをするように促した。あくしゅタイム中は、うまく自分の考えを表現できない児童・生徒もいるため、話型を示して感想や質問を返し、双方向のやり取りになるように努めた。

次に、児童・生徒に対する「道徳の時間に関する意識」についてのアンケートで、「あくしゅタイム」において児童・生徒が教師の期待する「あくしゅタイム」の姿に近づいたかを検証する。(資料④、⑤)

資料④ 「道徳の時間に関する意識」についてのアンケート（児童・生徒）
「道徳の時間には、他の人の考えをしっかりと聞こうとしていますか？」



資料⑤ 「道徳の時間に関する意識」についてのアンケート（児童・生徒）
「道徳の時間には、自分の考えをしっかりと伝えようとしていますか？」



資料④の結果から、道徳の授業において児童・生徒が他の人の考えをしっかりと聞こうとする意識の高まりが見られた。相手の考えや感じたことがよく分かり、自分の考えと比べながら能動的に話し合いに向かうことができるようになってきたと考える。

一方、資料⑤の結果から、自分の考えを伝えることに苦手意識を持っている児童・生徒が多いことが伺える。「あくしゅタイム」では、自由に交流させることで、安心して活発に意見を伝え合う姿が多く見られた。しかしながら、交流相手が固定されてしまい、意見の広がりや深まりが見られない等の課題も見られた。そのため、ねらいに応じて、あくしゅタイムの形態を少人数グループにするなど、工夫していく必要がある。さらに、道徳科だけでなく国語科や朝の会においてスピーチタイムやミニディベートなどの場を設けて、他教科でも伝える力を強化していきたい。

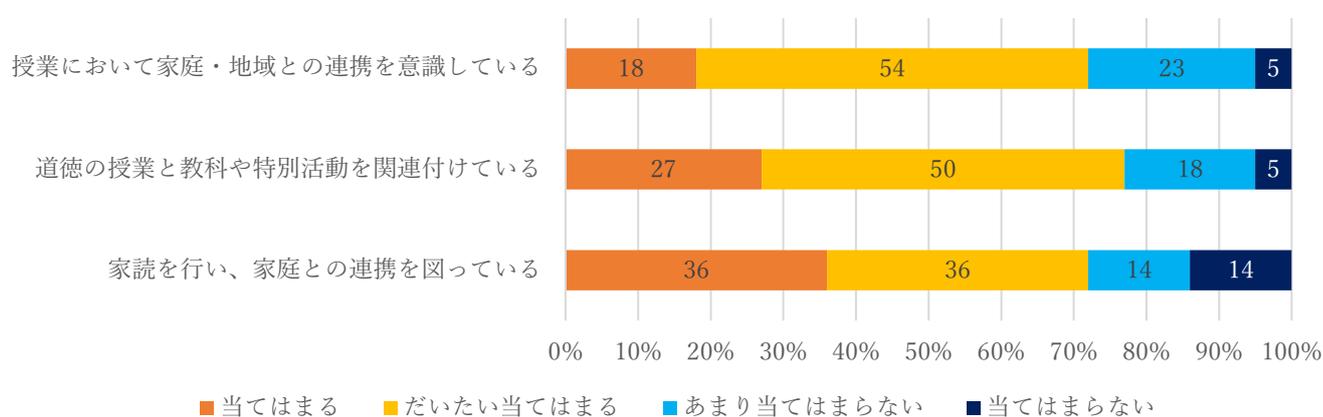
(2) 道徳科の授業を支え、生かす取り組みの充実

仮説（2）における道徳授業を支え、生かす取り組みについて分析する。家庭や地域との連携、道徳教育の基盤づくりの2点から分析を進める。

ア 家庭や地域との連携について

家庭との連携を図るために、「勤労」を学習する際には、保護者への事前アンケートに協力してもらい、授業で紹介し、価値理解を促すようにした。また、家読を全学年で月に1回以上行い、道徳で学習したことを児童・生徒が家庭で想起し、学習を通して感じたことを家族の人と話す機会を設けるようにした。家読をする際に、道徳のポートフォリオを持ち帰り、授業で考えたことも保護者の方に伝えられるようにした。さらに、学級通信や道徳通信などを通して、学校の道徳教育について情報発信をするようにした。教員へのアンケートでは、「授業において、家庭・地域との連携を意識している」と回答した教員は、72%であった。2学期以降の課題として、「家族愛・家庭生活の充実」や「郷土の伝統と文化の尊重」、「生命の尊さ」などの内容項目など、保護者や地域の人々の協力を得ながら、授業を改善していく必要がある。

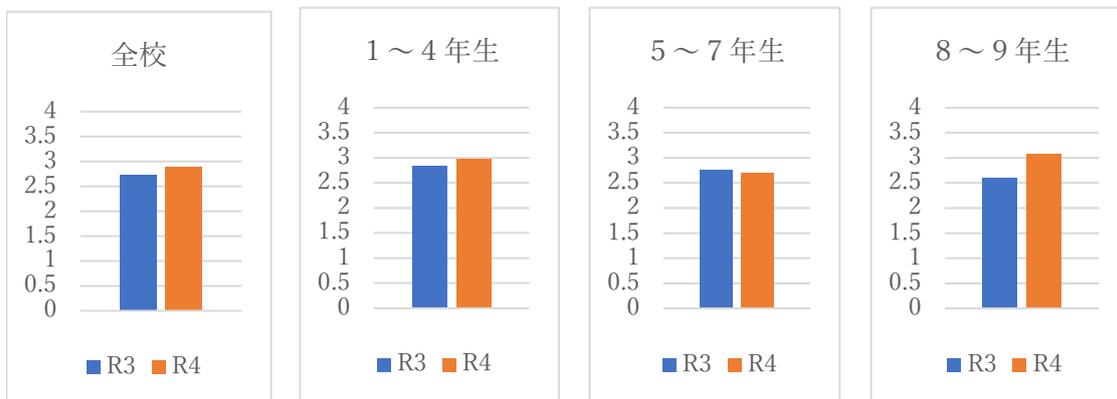
資料⑥ 道徳の授業に関するアンケート（教員）



次に、「道徳の時間に関する意識」についてのアンケートで、家庭や地域との連携について検証する。

資料⑦ 「道徳の時間に関する意識」についてのアンケート（児童・生徒）

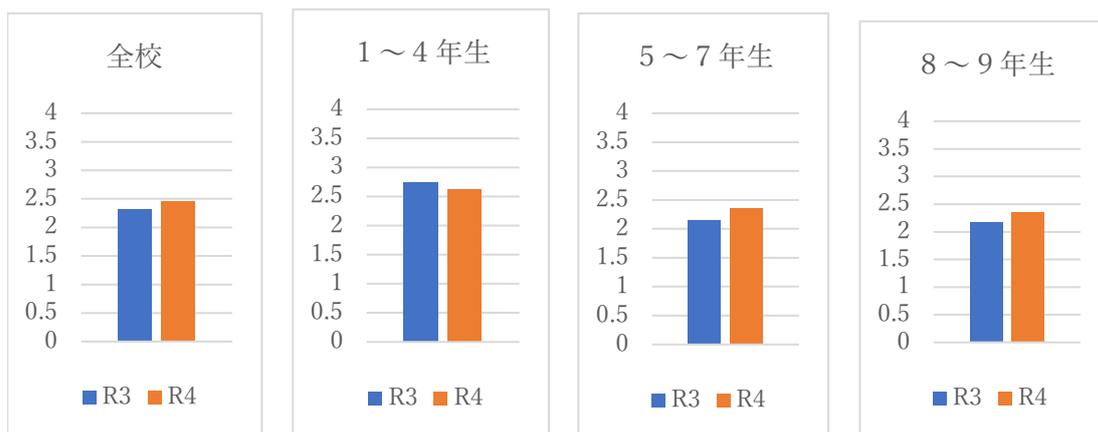
道徳の時間に学習したことを、生活の中で思い出すことがありますか？



4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

資料⑧ 「道徳の時間に関する意識」についてのアンケート（児童・生徒）

道徳の時間に学習したことを、家の人に話すことがありますか？



4：当てはまる 3：だいたい当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

資料⑦の結果から、道徳で学習したことを生活の中で思い出すと回答した児童がわずかに増加したことが分かる。コラボ道徳の計画を立てて、道徳の授業と他教科や学校行事との関連を図ったことの効果が見られるものの、学年によってはコラボ道徳を十分に行えなかった学年もあったため、教員間での共通理解を再度行い、2学期以降の実践につなげていきたい。

資料⑧の結果から、昨年度に比べて「家の人に話す」と答えた児童・生徒がわずかに増えたが、まだ十分な成果であるとは言えない。毎月1回の家読を確実に実施するとともに、学級通信や道徳通信による情報発信をさらに充実させたい。

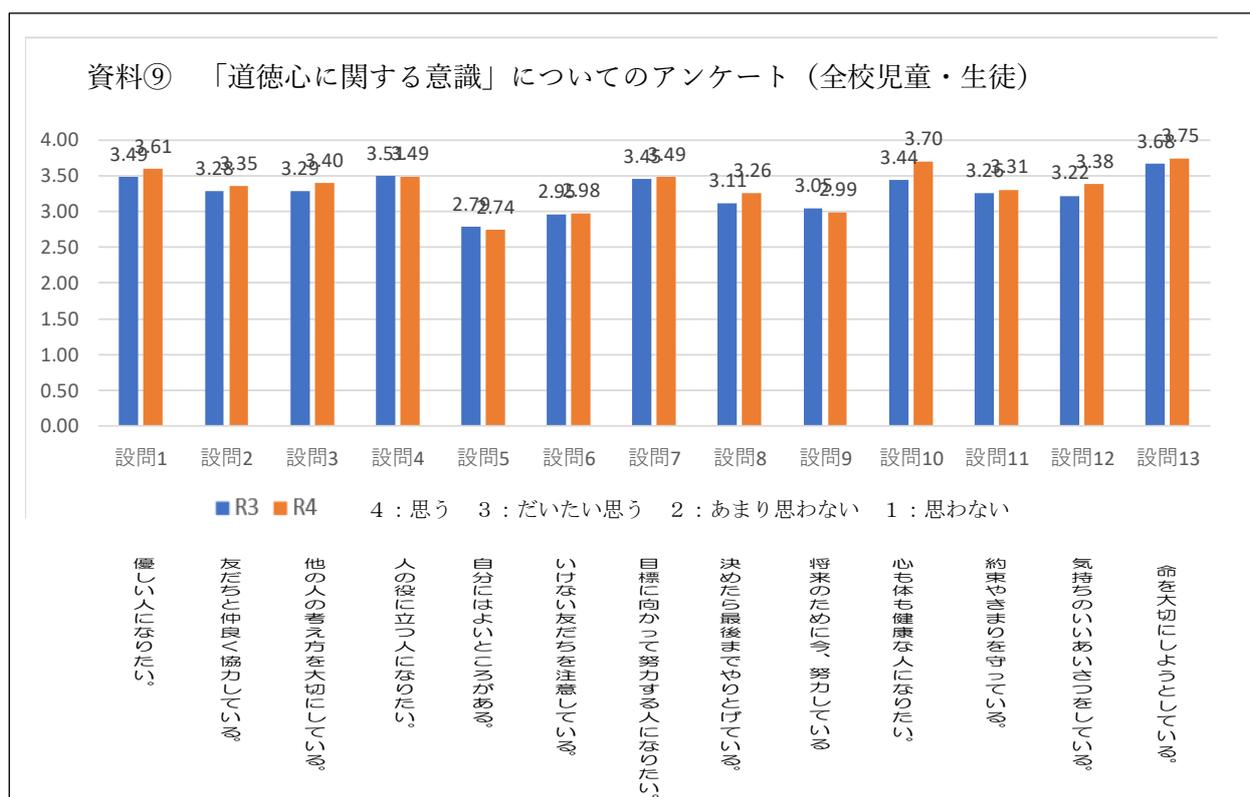
イ 道徳教育の基盤づくりについて

道徳の授業の終末では、論語カルタを紹介することで、総合的な学習の時間や地域の特色と関連づけて考えさせるようにした。低学年では、教材が身近なものになっているので、道徳で生命尊重について学習した後に、生活科の「あさがおの観察」や、「やさいを育てよう」などの学習を行い、道徳実践の場において命を大切にしようとする意識を持たせることができた。また、体育大

会においては、体育大会の練習が始まる前に、道徳の授業において「友情・信頼」に関する内容項目を取り上げた。さらに、全学年で友達のよさや自分の頑張りについて振り返る「心の木」の取り組みを行った。「道徳の授業に関するアンケート」でも、「コラボ道徳として、道徳の授業と教科や特別活動を関連づけている」と回答した教員は、77%であった。多くの授業において、実践が進んでいるものの、22%の教員は、実践ができていないと回答しており、2学期以降の課題と言える。(P19の資料⑥)

(3) 多様な価値を認め合う豊かな心について

仮説に従い、(1)、(2)により「多様な価値を認め合う豊かな心」が育成されたかを分析する。



「道徳心に関する意識」についてのアンケートで、児童・生徒が、多様な価値のよさや大切さに気づき、相手のよさを認めようとする心が育まれているかを検証する。(資料⑨)

まず、13項目中6項目において、「思う」と回答した児童・生徒が増加した。このことから、児童・生徒が道徳的価値について、その大切さを感じ、肯定的に捉えていることが分かる。また、設問3「他の人の考え方を大切にしている」と回答した児童・生徒が増加しており、自分とは異なる他者の考え方を尊重しようとする心情が育ちつつあると伺える。さらに、今年度、重点項目である「思いやり（設問1）」と「相互理解（設問3）」、「努力と強い意志（設問8）」について、「思う」と回答した児童・生徒が増えていることから、重点項目についての授業改善が図られていると考える。

一方、設問5「自分にはよいところがある」については、「思う」と回答した児童・生徒が減少している。自己のよさを認めることができない児童・生徒が多い現状は、課題であるため、道徳科のポートフォリオ評価を通じて、教師が児童・生徒の考えのよさを認め励ますことが求められる。また、特別活動や他教科において、自分自身のよさにも目を向けられるように指導していく。

2 抽出児童・生徒の変容（ポートフォリオ評価）

道徳の授業を通じた児童・生徒の変容について、各学級1名を抽出児童・生徒とし、ワークシートから読み取っていく。

(1) 1年生A児について

本学級では、6月に「希望と勇気 努力と強い意志」7月に「生命の尊さ」の内容項目について学習を行った。A児は、道徳的価値について分かっているものの、6月までの時点では、行動の動機付けが自分よりも他人の賞賛に向いていた。

授業では、まだまだ書く活動が十分にできないことが多いので対話的な学び（あくしゅタイム）で特に友達と話す活動を中心に交流させてきた。そのなかでいろいろな意見や考えがあることを実感してきた。

A児は、7月になると、友達と意見を交流しながら、自分の意見を、自信をもって表現できるようになりつつある。また多くの人物への思いも考えられるようになってきた。

A児の振り返り【6月】

「ともだちにほめてもらいたいから」

A児の振り返り【7月】

「あかちゃんおおきくなってね。おかあさんおせわがんばってね。」

(2) 2年生B児について

本学級では、4月に「よりよい学校生活、集団生活の充実」「個性の伸長」の内容項目について学習を行った。振り返りでは、自分の生活に戻り、自分事としては、気持ちは薄いがどうしていきたくかを考えて書いていた。

6月に「個性の伸長」「友情、信頼」の項目について学習した。この授業では、心のものさしを通して、主人公の心の葛藤について自我関与できるように工夫した。7月に「家族愛、家庭生活の充実」の項目について学習した。学習後に学んだことや自分の思いを家族に向けて手紙を書いた。友達や家族の大切さを感じ、具体的にどうしていきたくかを考えることができた。授業で、対話的な学び（あくしゅタイム）を毎回設定してきたことで、積極的に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする姿が見られるようになった。

B児の振り返り【4月】

今までの自分は、ともだちとけんかばかりしていた。いっぱいけんかしているからこれからは、けんかしないようにだんだんなかよくしていきたい。

B児の振り返り【7月】

これから自分にできることは、クラスみんなに優しくする。ケンカのないクラスにしてクラスをパワーアップさせたいです。一しょにあそんで、みんななかよくなりたいたいです。

(3) 3年生C児について

本学級では、6月に「善悪の判断、自律、自由と責任」、7月に「正直、誠実」の内容項目について学習を行った。

C児は、道徳的価値について理解しているものの、6月までの時点では、判断の規準が他律的であった。

授業で、対話的な学び(あくしゅタイム)を設定し、友達と考えを交流させてきたことで、C児は、7月になると、これまでの自分の感じ方と友達の考えを照らし合わせて、自ら正しいと判断したことを行おうとするようになってきた。判断の規準が自律的になり、道徳的価値への理解が深まりを見せてきた。

C児の振り返り【6月】

もし自分が言わなかったら、モヤモヤが残るから言う。正直に言えば、おこられないから。

C児の振り返り【7月】

うそをついたままだと、もやもやがイライラになるから、うそをついたら、すぐあやまる。

(4) 4年生D児について

本学級では、4月に「個性の伸長」と「公正公平、社会正義」の内容項目について学習を行った。

D児は、授業の振り返りにおいて、「個性」について自分が知ったことや理解したことを書いている。価値について理解しているものの、自分事として考える姿は見られていなかった。

6月に「親切、思いやり」の内容項目について学習をした。表情図を用いて、主人公の葛藤について自我関与できるような授業づくりに努めた。

この授業の終末では、D児がこれまでの経験を想起し、自分事として捉えている姿が見られた。また、学習前の自分の感じ方と照らし合わせながら、考えを深めていることが伺える。

D児の振り返り【4月】

コスモス(特別支援学級)の人がじぶんたちのペースで勉強をしていることがわかりました。むだな命なんか一つもないことをしりました。みんなは一つ一つちがうこせいがある。

D児の振り返り【6月】

ぼくは足がふじゆうな人や手や目、耳などのふじゆうな人をみたことがあります。今までは、「あの人、目が見えてないやん。」とか言っていたけど、今日からはそんなことを言ったらだめなことを知りました。



(5) 5年生E児について

4月に「感謝」についての学習を行った。E児は、積極的に発言をする一方で、振り返りの記述では、「〇〇は大事だと思った。」「〇〇してはいけないと思った。」など、教材の内容についてのみ記述していた。

7月に「よりよい学校生活、集団生活の充実」についての学習をした。「やる気メーター」を用いて、主人公の仕事に対するモチベーションや心情（責任感や後悔、自責の念など）を捉えられるようにした。

この授業の振り返りでは、委員会活動と結びつけて、自分もつ思いや、これからのことについて記述することができた。また、実際の委員会活動への取り組みでは、この授業以前から、責任感をもって、意欲的に仕事に取り組む様子が見られていた。しかし、授業の振り返りから本当は、仕事に対して、前向きではなかったことが伺える。それでも責任感を持って行っていたE児の態度は素晴らしい。この学習を通して、責任感をもって仕事に取り組もうという意欲がより高まったのではないかと考える。

E児の振り返り【4月】

ありがとうといまからいう。

E児の振り返り【7月】

しょうじきコンテナとうばんはいや
だけどちゃんとやらないといけないと
おもった。

(6) 6年生F児について

F児は4月に「個性の伸長」の内容項目について学習した際に、主人公の気持ちについてよく考えていた。価値について理解し、これからの自分について考えているものの、漠然とした課題しか持っていない。

6月に「勤労、公共の精神」の内容について学習を行った。表情図を用いて、主人公の気持ちの変容について自我関与できるような授業づくりに努めた。

この授業の終末では、F児が自分自身の経験やそれに伴う感じ方、考え方を自分事として理解できるようになった。また、自分の気持ちを通して、多面的な見方ができるようになった。

F児の振り返り【4月】

夢をもったら何年かけてでも夢をかなえる遠藤さんみたいに、夢を叶えようと努力しようと思います。また、自分の長所も役立てていきたいです。

F児の振り返り【6月】

私は今まで委員会などをあまり楽し
くないと思ったこともあったけど、ど
んな仕事でも感謝してくれる人は必ず
いるからがんばろうと思いました。そし
て私も色々な人に感謝しようと思いま
す。



(7) 7年生 生徒Gについて

本学級では、4月に「礼儀」の内容項目について学習を行った。登場人物の気持ちを押さえたうえで、なぜあいさつが大切なのかを考えさせた。生徒Gは礼儀の意義は理解しているものの、時と場に応じた適切な言動をしていこうとする意欲の高まりには至っていない。

7月に「社会参画公共の精神」の内容項目について学習をした。主人公がボランティア活動に対する気持ちの高まりが可視化できるようにハートメーターを用いた。また、ボランティアを受ける側の人物の気持ちも理解できるようにワークシートを工夫した。この授業の終末では、これまでボランティア活動を自分にとって無関係だと思っていたが、自分にもできることがあるのではないかという意欲を持ち始めているのが伺える。

生徒Gの振り返り【4月】

あいさつは、相手と自分が対等というしるし。あいさつが大事だということがあらためてわかった。

生徒Gの振り返り【7月】

ボランティアは私達ができることじゃないかと思っただけ、私たちがして喜んでくれる人がいると知ってやりたいと思った。

(8) 8年生 生徒Hについて

4月に「思いやり、感謝」の内容項目について学習をした。あくしゅタイムや友人との話し合いは積極的に参加し、人の意見もしっかりと聞くことができるものの、意見を言うだけで終わっているように思える。

7月に「公共の精神」の内容項目について学習を行った。「表情図」や「心のものさし」を用いて、より自分事として捉えることができるように努めた。また、あくしゅタイムでは意見を言って終わりではなく、そこからもう一步踏み込んだやり取りをするよう促した。生徒Hは、意見を述べ、または意見を聞いて終わりではなく、そこからまた考えることができている。

生徒Hの振り返り【4月】

自分の考えとみんなの考えを比べてみて、全然違うところがあって面白いなと思いました。

生徒Hの振り返り【7月】

防犯カメラを学校に設置することに対して最初は反対だったけど、賛成の人の意見を聞くと、賛成になってきました。



(9) 9年生 生徒Iについて

4月に「礼儀」の内容項目について学習した。授業では、挨拶の3つの場面について、挨拶をする場面の心情と、挨拶ができない場面の心情を対比させながら展開した。生徒Iは、振り返りににおいて、挨拶が形式だけに留まらず、相手への思いやりの心が肝要であることには考えが及んでいなかった。

7月に「勤労」についての学習を行ったところ、立場の違う4者に分かれて話し合わせた。特に、「あくしゅタイム」では、同じ立場の人と共有するだけでなく、立場の違う人にあえて「もし~だったら、…も考えられないか?」と、意見を返すように促した。授業の終末では、生徒Iは立場の違う友達の考えを受けて、自分と比べながら価値について考えていることが分かる。

生徒Iの振り返り【4月】

(返事やあいさつをするときに、どのようなことを大切にしていきたいか。)

- ・相手の目を見て
- ・元気よく
- ・大きな声で

生徒Iの振り返り【7月】

私は何をするときにも深く考えてしまいます。なのでずっと私は「職業」について悩んでいましたが、友達は「やりたいことをする!」といった意見が多く、決断力があってすごいなと感じました。友達の意見も参考に将来について考えていきたいです。



3 研究の成果と課題

【成果】

- 自分事として考えられるような発問を工夫し、学習活動を設定したことで、「道徳の時間には、自分のことを考えている」と回答した児童・生徒が増加した。各学年の抽出児童・生徒のポートフォリオにおいても、4月当初は価値の理解で留まっている考えが見られたが、次第に自己の経験を想起して考え方を深めている姿が見られた。
- 道徳科の授業において、教員がねらいを明確にもち、児童・生徒一人一人の考えを表現するための手立てを工夫しようとする意識が向上した。
- 「表情図」や「心のものさし」「役割演技」などのツールを活用し、互いの考えを可視化したことで、児童・生徒が積極的に相手の話を聞き、他者の考えを受け入れようとする児童・生徒が増えた。
- 毎回の「あくしゅタイム」を確実に実施したことで、これまでの自分の感じ方と友達の考え方を照らし合わせて、自ら正しいと思うことを判断しようとする姿が見られるようになった。「あくしゅタイム」では、話し合いの視点を与えることで、話し合いが活発になった。
- 道徳科の授業において、2つの授業の視点である、「多面的・多角的に考えることができるような学習活動」および、「自分との関わりで考えられるような学習活動」の工夫をしたことで、「道徳の学習は自分のためになっている」と回答した児童生徒が増加した。
- 教員の連携・意欲の高まりが見られた。(児童・生徒の実態の共有、発達への理解、授業づくりの検討)
- 目指す児童生徒像の共有、明確化が進んだ。(各学年(学級)の特色、個性の理解と相対化、めざす姿の段階化)
- 道徳科授業の質的改善が進んだ。(①実態からねらいへ、②実態、ねらい、内容から方法へ、③方法の選択)
- 特別活動等その他の教育活動の高まりが見られた。(目標の明確化、内容、方法の精選、相乗効果)

【課題】

- 自分の意見や考えを伝えることに苦手意識を持っている児童・生徒は多いことが課題である。ペアでの「あくしゅタイム」では活発に伝え合うことができるため、少人数グループでの話し合いの形式を工夫するとともに、他教科でのスピーチやディベートなども強化していく。
- 家庭との連携では、「道徳の時間に学習したことをお家の人に話す」と回答した児童・生徒の増加が小さかった。毎月の「家読」を確実に実施するとともに、道徳通信や学級通信などを通じて、学校での道徳教育について発信を増やしていく必要がある。保護者アンケートも活用するなど、家庭との双方向での連携を図る。
- 教員の意識調査においても、「家庭・地域との連携を意識している」と回答した教員は72%に止まったため、2学期以降は「家族愛」や「郷土の伝統と文化の尊重」、「生命の尊さ」などの内容項目において、保護者や地域の人々の協力を得ながら、授業を改善していく。
- 教員の連携(幅広く、深く)を強め、目指す児童生徒像の共有、明確化(幅広く、深く)をさらに進める。
- 道徳科授業の質的改善に継続して取り組んでいく。
- 特別活動等その他の教育活動との連携の充実を図る。